

事 務 連 絡
平成 30 年 5 月 21 日

各都道府県教育委員会
各指定都市教育委員会
各都道府県私立学校主管部課
各国公立大学附属学校担当部課
御中
高等学校を設置する学校設置会社を所轄
する構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の
認定を受けた各地方公共団体の担当部課

文部科学省初等中等教育局国際教育課
文部科学省高等教育局大学振興課

「大学入試英語成績提供システム」参加試験ニーズ調査等
に係る協力について（依頼）

文部科学省では、高等学校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、大学入学者選抜においても、「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語の 4 技能を適切に評価するため、共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用することとしています。（大学入学共通テスト実施方針（平成 29 年 7 月文部科学省公表））

具体的にどの民間試験を活用するかについては、入学者選抜に活用する上で必要な要件を満たしているかを独立行政法人大学入試センターが確認した結果、計 7 団体・23 試験が要件を満たす資格・検定試験として確認されています。これらの資格・検定試験は、大学入学者選抜における資格・検定試験の活用を支援するための仕組みとしてセンターに設けられる「大学入試英語成績提供システム」に参加することとなります。

文部科学省としては、受検生の受検機会の確保、利便性の向上や経済的負担の軽減を図るため、上記システムの参加試験の実施主体に対し、実施会場の確保や検定料の配慮に努めるよう要請しているところですが、さらに多くの地域における実施や検定料の配慮を求めていく必要があると考えております。このためには、各地域の実態に即して各参加試験へのニーズを把握する必要があり、全国の高等学校等に対し、「大学入試英語成績提供システム」参加試験ニーズ調査を実施いたしますのでご協力いただきたいと思います。

つきましては、都道府県・指定都市教育委員会にあっては所管の高等学校及び中等教育学校並びに域内の市区町村教育委員会等に対し、都道府県私立学校主管部課にあっては所轄の高等学校及び中等教育学校に対し、国公立大学にあっては設置する附属高等学校及び附属中等教育学校に対し、構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の認定を受けた各地方公共団体の担当部課にあっては認可した高等学校に対し、それぞれ別紙の事務連絡を周知いただくとともに、その結果を集計表（【都道府県番号・都道府県名】集計表.xlsx）に取りまとめの上、平成 30 年 9 月 14 日（金）までに、下記担当までメールにて御提出いただきますようお願いいたします。

【本件担当】

高等教育局 大学振興課 大学入試室 入試第三係
TEL：03-5253-4111（内線 4905）
E-mail：gaknyusi@mext.go.jp

(別紙)

事 務 連 絡

平成30年5月21日

関係高等学校
関係中等教育学校 御担当者様

文部科学省初等中等教育局国際教育課
高等教育局大学振興課

「大学入試英語成績提供システム」参加試験ニーズ調査について（依頼）

「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月文部科学省公表）では、高等学校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、大学入学者選抜においても、「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語の4技能を適切に評価するため、共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用することとしています。

具体的にどの民間試験を活用するかについては、入学者選抜に活用する上で必要な要件を満たしている資格・検定試験を独立行政法人大学入試センターが確認した結果、別添図1のとおり要件を満たす資格・検定試験が決定されています。（図1参照）これらの資格・検定試験は、大学入学者選抜における資格・検定試験の活用を支援するための仕組みとしてセンターに設けられる「大学入試英語成績提供システム」に参加することとなります。

文部科学省としては、受検生の受検機会の確保、利便性の向上や経済的負担の軽減を図るため、上記システムの参加試験の実施主体に対し、実施会場の確保や検定料の配慮に努めるよう要請してきたところですが、各地域の実態に即して各参加試験へのニーズを把握した上で、さらに多くの地域における実施や検定料の配慮を求めていく必要があると考えております。

このため、全国の高等学校・中等教育学校におかれては、別添のとおり「大学入試英語成績提供システム」参加試験ニーズ調査へのご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

回答に当たっては、貴校における現在の予測をあくまで分かる範囲で記入いただければ幸いです。なお、2020（平成32）年度に大学入学者選抜の受検を希望する高校1年生が在籍していることが見込まれない学校においては、本調査へのご回答は不要です。

【問い合わせ先】

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室入試第三係

TEL：03-5253-4111（内線4905）

FAX：03-6734-3392

E-mail：gaknyusi@mext.go.jp

「大学入試英語成績提供システム」参加試験ニーズ調査について

1. 趣旨

2020 年度から大学入試センター試験に代わって実施される「大学入学共通テスト」の枠組みでは、英語の 4 技能を評価するために民間の英語資格・検定試験を活用することになっています。したがって、現在の高校一年生が大学受検をする際には、多くの生徒が英語の資格・検定試験を受けることになると予測されます。

この調査は、どのくらいの受検生がいつ、どの英語資格・検定試験を受検する見込みかの受検ニーズを試験実施団体に示すことで、より安価な検定料で、より多くの地域で試験が実施されるよう求めることを目的としています。

どの試験を受けるかは受検生個人が決めるため、本来なら試験を受けることとなる現在の高校一年生の意向を調査すべきですが、高校に入学したばかりの生徒に大学受検でどの英語資格・検定試験を受けるつもりかを問うことは現実的ではないため、この調査は、各学校に、学校としての見込みを教えてくださいと設計としています。

とはいえ、回答を作成いただく先生方にとっても 2 年後の状況を完全に見通すことは難しいと思いますので、回答に当たっては、貴校における現在の予測をあくまで分かる範囲で記入いただければ幸いです。

さらに多くの地域における実施や検定料の配慮を求めていくためには、2020 年度の大学入学者選抜において実際に英語の資格・検定試験を受検することとなる現在の高校 1 年生が、いつ・どこで・どの参加試験を受検することが予測されるかのニーズを把握し、参加試験の実施団体に伝えていくことが不可欠です。全国の高等学校・中等教育学校等におかれては、ご協力をお願い申し上げます。

2. 「大学入試英語成績提供システム」参加試験について

- (1) 参加試験は、2020 年（平成 32 年）度実施する 2021 年（平成 33 年）度大学入学者選抜から活用されます。
- (2) 参加試験結果については、受検生の依頼に基づき、大学入試センターに設けられる「大学入試英語成績提供システム」に一元的に集約され、要請のあった大学等に対し提供されます。【図 1、図 2 参照】
- (3) 受検者の負担や受検機会の複数化を考慮し、このシステムに登録できる参加試験の結果は、高校 3 年の 4 月～12 月の間に受検した 2 回までの参加試験のものと

することとしています。

- (4) システムを通じて各大学に集約・提供される成績は、各実施主体が定めるスコア（バンド表示も含む）、外国語の運用能力のレベルを示す国際的基準である C E F R（セファール）の 6 段階評価及び合否（判定している場合）を基本とし、大学は、それぞれの判断で、参加試験を活用することとなります。
- (5) 異なる参加試験間のスコアの比較に資するため、文部科学省においても C E F R の対照表を作成し、提供しています。【図 3、図 4 参照】

3. 調査実施要領

＜調査対象・回答者＞

本調査は、2020（平成 32）年度に大学入学者選抜の受検を希望する高校 1 年生（平成 30 年 4 月現在）が、2020 年度に高校 3 年生となった時、どの参加試験をいつ、どこで受検することが予測されるかについて把握することを目的としています。

本来は、生徒本人から聞き取ることが望ましいと考えますが、入学直後の高校 1 年生に大学入学者選抜に関する希望を聴取することは現実的ではないとも考えられるため、生徒が在籍する学校に生徒本人の意向も尊重していただきつつ、見込みを立てた上での回答をお願いするものです。

2020（平成 32）年度に大学入学者選抜の受検を希望する高校 1 年生が在籍していることが見込まれない学校においては、本調査へのご回答は不要です。

＜回答方法＞

学校調査票（Excel ファイル）に回答を記入の上、4 ページに示す提出先にご提出願います。提出の際、調査票は PDF 化せず、Excel ファイルのままお送りください。

その際、高等学校等コード及び都道府県・市町村コードは以下 URL に掲載のものをお使いください。

高等学校等コード表（大学入試センターウェブサイト）

http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00009713.pdf&n=10_%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%AD%89%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%89.pdf

都道府県コード及び市区町村コード（総務省ウェブサイト） http://www.soumu.go.jp/main_content/000442938.pdf

＜記入要領＞

- (1) Q 1～6 について、学校調査票（Excel ファイル）の各質問の説明をよく読んだ上で、以下入力例を参照してお答えください。Q 2 についての回答は任意です。
- (2) 回答は、学校調査票（Excel ファイル）の着色されたセルに直接入力してください。

【入力例】

入力欄 コード		資格・検定試験名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月～ 12月初旬
実用英語技能検定(英検) 黄色の入力欄(1～5)もしくは水色の入力欄(23)のいずれか一色の欄にのみ入力										
1	1級									
2	準1級									
3	2級							100		
4	準2級									
5	3級									
23	上記のいずれかの級									
6	IELTS									
7	TEAP									
8	TEAP CBT									
GTEC 黄色の入力欄(9～12)もしくは水色の入力欄(24, 25)のいずれか一色の欄にのみ入力										
9	Advanced									
10	Basic									
11	Core									
12	CBT									
24	Advanced・Basic・Coreのいずれか									100
25	CBT									100

①受検希望参加試験

②受検希望月

①受検希望参加試験の②受検希望月に該当する生徒の人数を入力してください。
※上の赤丸の場合は、英検2級を9月に受検する見込みの生徒が100人いることを示しています。

受検する級・レベルを詳細に予測することが難しい場合は、水色セルに入力してください。この場合、水色セルに入力すると、その試験の黄色セルには入力できなくなります。
※この場合、GTEC Advanced・Basic・Coreのいずれかを11-12月初旬に受検すると見込まれる生徒が100人、CBTが100人いることを示します。

<回答にあたっての留意点>

- (1) 調査実施者としても、本調査の性質上、2年後の実際の受検状況と一致するような確度でのニーズ把握は難しいと考えています。このことを踏まえた上で、完全に正確なものではなくて結構ですので、現在の貴校の予測を分かる範囲でご教示いただければ幸いです。なお、本調査のために、学校内でアンケート等をとることまでを求めるものではありません。
- (2) それぞれの設問について、以下の点にご留意の上ご回答ください。

【Q1・Q2 共通】試験の実施会場や時期については、現状がどうであるかに関わらず、希望する月に、在籍する学校がある地域（市区町村内）で試験が実施されると仮定してお答えください。

【Q1】現在の高校1年生が3年生になった際に大学入学者選抜受験に用いるために受検する参加試験についてお答えください。なお、システムに登録できる参加試験の結果は受検時期・回数が高校3年の4月～12月の2回までとされていますが、2回目を受検する生徒がいる場合の人数についてもQ1で併せてご回答ください。

【Q 2】2020 年度の時点での貴校の高校 1 ～ 3 年生が、英語の授業や自己学習のために資格・検定試験を 2020 年度に受検すると見込まれる場合の人数をお答えください。これらの設問は、2020 年度を迎える際に、各試験実施団体が大学入学者選抜に活用される参加試験以外の通常の試験の受検ニーズも把握した上で会場の確保や試験監督員の配置等を行うことができるよう、2020 年度における全体的な受検ニーズを把握するためにお伺いするものです。Q 2 については、受検を予定していない学校もあると考えられますので回答は任意でお願いいたします。

なお、Q 2 の場合に生徒が受検する資格・検定試験は参加試験以外のものも想定されるため、この調査票では参加試験ではない資格・検定試験も含めてご回答ください。(例えば、生徒が実用英語技能検定（英検）の従来型の試験を 3 年生までに受ける見込みもありえるかと思いますが、この場合についても見込まれる人数を分かる範囲で記載してください。)

【Q 3・Q 4】公立学校については設置者にご回答ください。設置者で 1 つの回答で結構です。学校別に回答を作成する必要はありません。

- (3) 本調査でいただいた個別情報は、教育委員会や参加試験実施主体に共有することを想定していますが、それ以外の第三者に提供されることはありません。ただし、調査結果の全体については公表する場合がありますので予めご承知おきください。

4. 問い合わせ先

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学入試室 入試第三係

TEL：03-5253-4111（内線 4905）（受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00）

FAX：03-6734-3387

E-mail：gaknyusi@mext.go.jp

※提出方法や提出期限に関するご質問は各提出先までお問い合わせください。

5. 提出先・提出期限

【提出先】

公立学校：所管の教育委員会

私立学校：所管の都道府県私立学校担当部課

国公立大学の附属学校：大学の附属学校担当部署

【提出期限】

各提出先の指示に沿ってご提出願います。（各提出先から文部科学省への提出期限は平成 30 年 9 月 14 日（金）までとしております。）

【図1】

＜対象となる資格・検定試験(「大学入試英語成績提供システム」参加試験)一覧＞

※次ページの留意点も併せて参照すること。

	資格・検定試験名
	実用英語技能検定(英検)
1	1級 (対象:「公開会場実施」)
2	準1級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」)
3	2級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
4	準2級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
5	3級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
6	International English Language Testing System(IELTS) (対象:「アカデミック・モジュール」)
7	Test of English for Academic Purposes(TEAP)
8	Test of English for Academic Purposes Computer Based Test(TEAP CBT)
	GTEC
9	Advanced
10	Basic
11	Core
12	CBT
	ケンブリッジ英語検定
13	C2 Proficiency
14	C1 Advanced
15	B2 First for Schools
16	B2 First
17	B1 Preliminary for Schools
18	B1 Preliminary
19	A2 Key for Schools
20	A2 Key
21	TOEIC® Listening & Reading Testおよび TOEIC® Speaking & Writing Tests
22	TOEFL iBTテスト

＜対象となる資格・検定試験(「大学入試英語成績提供システム」参加試験)にかかる留意点＞

- 各大学が実施する入学者選抜において活用する英語の資格・検定試験や、その方法(出願要件とするのか、資格試験の成績に応じて入学試験の点数に加点を行うのかといったこと)については、アドミッションポリシーに応じて、各大学が判断することとなります。大学入試において課す教科・科目の変更等が入学志願者の準備に大きな影響を及ぼす場合には、2年程度前には予告・公表することとなっているため、今後、2020年度入試に関する大きな変更点については各大学が公表するものと想定されます。
- 2020(平成32)年度に実施される大学入学共通テストの枠組みにおいて活用できるのは、あくまで前頁の一覧に掲載された資格・検定試験となります。例えば国際連合公用語英語検定試験(国連英検)や、平成30年5月現在実施されている実用英語技能検定(英検)(いわゆる「従来型」の英検)等、前頁の一覧に掲載された資格・検定試験以外の英語検定試験については、大学入学共通テストの枠組みにおいて活用できる資格・検定試験ではありませんので、ご注意ください。
- その他、各資格・検定試験の詳細については、次ページ以降の概要及び以下ウェブサイトをご参照ください。

英語4技能試験情報サイト <http://4skills.jp/>

主な英語の資格・検定試験及び参加試験※

平成30(2018)年5月現在

試験名	ケンブリッジ 英語検定		英検		GTEC/ GTEC CBT		IELTS		TEAP/ TEAP CBT		TOEFL iBT		TOEIC L&R		TOEIC S&W	
実施団体	ケンブリッジ大学 英語検定機構		公益財団法人 日本英語検定協会		ベネッセ コーポレーション		テスト作成: ケンブリッジ大学英語検定機構、ブリティッシュ・カウンシル 日本事務局: (公財) 日本英語検定協会		公益財団法人 日本英語検定協会		テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE		テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC			
受検人数 (国内実績)	非公表 ※全世界では約550万人		約339.4万人 ※英検Jr.、英検IBAを含む英検テストファミリー総志願者数		約93万人		約3.7万人 ※全世界では290万人		約2.5万人 ※志願者数		非公表		約250万人 ※TOEICプログラム 全世界約700万人		約3.2万人 ※TOEICプログラム 全世界約700万人	
回数 年間	各10－22回程度、計206回 (2018年・世界共通)	各2～4回	英検3回 CBT3回 (CBTは毎月実施だが、検定回ごとに1回受験可)	S-Interview、 1 day: 各級2回 CBT: 毎月実施	PBT 3回 CBT 3回	PBT 4回 CBT 2回	約40回	22回・24回	各3回		40－45回	28回	10回	8回	24回 (1日2回 x12回)	18回 (1日2回 x9回)
会場数	最大7地区 20会場	最大10地区 47会場	公開会場230 都市400会場+準会場 (海外・離島含)17,000会場	S-Interview、 1 day: 全都道府県約400会場 CBT: 13都市約20会場	全都道府県1,850会場 (CBT: 58会場)	全都道府県700会場程度 (CBT: 70会場程度)	20都道府県約90会場	10地区以上 会場数未定	20都道府県約60会場 (うちCBT約15会場)	全都道府県約90会場 (うちCBT11都道府県以上、会場数未定)	最大10地区 78会場	会場数未定	全都道府県最大247会場 (*6)	全都道府県最大214会場 (*6)	全国13地域最大47会場 (*6)	全国13地域最大43会場 (*6)
成績表示方法 (※1)	CEFR・Cambridge Englishスケールスコア (80-230)・合格グレード		合否・英検CSEスコア(0-3400)・英検バンド		スコア(0-1400)		CEFR・バンドスコア (1.0-9.0、0.5刻み)		スコア(TEAP: 80-400、TEAP CBT:0-800)・CEFRバンド		スコア(0-120)		スコア(10-990)		スコア(0-400) ※4技能での評価においては0-1000として合算	
出題形式 (※2)	L, R, W 紙/CB S ペア面接		L, R, W 紙 S 面接 (CBTは全てCBT)	L, R, W 紙 S 面接/CBT (CBTは全てCBT)	L, R, W 紙 S タブレット (CBTは全てPC)		L, R, W 紙 S 面接		L, R, W 紙(※5) S 面接 (CBTは全てCBT)		CBT		紙		CBT	
受検料 (税込・円)	C2 Proficiency 25,380 C1 Advanced 22,140 B2 First 19,980 B1 Preliminary 11,800 A2 Key 9,720 (※3)		1級: 8,400 準〃: 6,900 2級: 5,800(※4) 準〃: 5,200(※4) 3級: 3,800(※4)	1級: 16,500 準〃: 9,800 2級: 7,500 準〃: 6,900 3級: 5,800	紙 5,040 CBT 9,720	紙 6,700 CBT 9,720	25,380		6,000 L/R 15,000 L/R/W/S		235米ドル		5,725		10,260	

※既存の資格・検定試験と「大学入試英語成績提供システム」参加試験とで違いがある場合、既存試験は左側、参加試験は右側の欄に情報を記載した。なお、IDP:IELTS AustraliaによるIELTSは条件付きで参加要件を満たしているとみなすことができると判断されたため、掲載していない。参加試験に関する情報は予定であり変更がありえる。
 *1全ての試験においてスコアを技能別に表示 *2: L=Listening(聞く), S=Speaking(話す), R=Reading(読む), W=Writing(書く) *3: 既存試験は実施試験センターにより異なることがあるが、参加試験はレベル毎に価格を統一する。*4: 準会場における受検料は400円引き *5: TEAP、TEAP CBT共にL/Rのみでも受験可能 *6: 開催月により異なる

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名		実用英語技能検定(英検) (1級・準1級・2級・準2級・3級 ※以下の①～③の各方式によって異なる)												
実施主体名		公益財団法人日本英語検定協会												
Webサイト		http://www.eiken.or.jp/eiken/												
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)			①1日完結型(仮称)				②公開会場実施(仮称)				③4技能CBT(仮称)			
	月		4～6	7～9	10～12	計	4～6	7～9	10～12	計	4～6	7～9	10～12	計
	回数	1級												
		準1級												
2級			各級 1	各級 1	各級 2	各級 1				各級 1				
	準2級													
	3級													
2020年度実施地区		47都道府県												
検定料(税込)	1級						16,500円※							
	準1級		9,800円※											
	2級						7,500円※							
	準2級						6,900円※							
	3級						5,800円※							
		※今後、若干の変動があり得る。												
経済的に困難な受検生への配慮		一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。												
試験構成	1級	R					850	100(R&W)		選択				
		L					850	約35	PBT	選択				
		W					850	100(R&W)		記述				
		S					850	約10	対面	面接				
	準1級	R	750	90(R&W)		選択	750	90(R&W)		選択				
		L	750	約30	PBT	選択	750	約30	PBT	選択				
		W	750	90(R&W)		記述	750	90(R&W)		記述				
		S	750	約8	CBT	録音	750	約8	対面	面接				
	2級	R	650	85(R&W)		選択	650	85(R&W)		選択	650	85(R&W)	CBT	選択
		L	650	約25	PBT	選択	650	約25	PBT	選択	650	約25		選択
		W	650	85(R&W)		記述	650	85(R&W)		記述	650	85(R&W)		記述
		S	650	約7	CBT	録音	650	約7	対面	面接	650	約7		録音
	準2級	R	600	75(R&W)		選択	600	75(R&W)		選択	600	75(R&W)	CBT	選択
		L	600	約25	PBT	選択	600	約25	PBT	選択	600	約25		選択
		W	600	75(R&W)		記述	600	75(R&W)		記述	600	75(R&W)		記述
		S	600	約6	CBT	録音	600	約6	対面	面接	600	約6		録音
	3級	R	550	50(R&W)		選択	550	50(R&W)		選択	550	50(R&W)	CBT	選択
		L	550	約25	PBT	選択	550	約25	PBT	選択	550	約25		選択
		W	550	50(R&W)		記述	550	50(R&W)		記述	550	50(R&W)		記述
		S	550	約5	CBT	録音	550	約5	対面	面接	550	約5		録音
CEFRの測定領域	1級						B2～C1							
	準1級		B1～B2											
	2級						A2～B1							
	準2級						A1～A2							
	3級						A1							
障害等のある受検生への合理的配慮		今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。												
備考		・3方式(「1日完結型(仮称)」・「公開会場実施(仮称)」・「4技能CBT(仮称)」)の詳細については、参考資料を参照。												

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

項目	①1日完結型(仮称) (2019年度～)	②公開会場実施(仮称) (2019年度～)	③4技能CBT(仮称) (2018年度8月～)
対象受検者	高校3年生※	高校3年生※	制限なし
RLW実施方式	PBT	PBT	CBT
S実施方式	録音式	対面式	録音式
S受検可否	申込者全員(一次合否を問わず可能)		
受検日数	1日	2日	1日
対象級	準1級～3級の4グレード	1級～3級の5グレード	2級～3級の3グレード

※高校3年生:大学入学者選抜を受験する浪人生なども含みます。

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名		International English Language Testing System(IELTS)			
実施主体名		ブリティッシュ・カウンシル			
Webサイト		http://www.eiken.or.jp/ielts/			
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)	月	4～6	7～9	10～12	計
	回数	9	9	6	24
2020年度実施地区		北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州			
検定料(税込)		25,380円			
経済的に困難な受検生への配慮		一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。			
試験構成		配点(点)	時間(分)	実施方法	解答形式
	R	9	60	PBT	記述
	L	9	約40	PBT	記述
	W	9	60	PBT	記述
	S	9	11～14	対面	面接
CEFRの測定領域		B1～C2			
障害等のある受検生への合理的配慮		今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。			
備考					

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名		International English Language Testing System(IELTS)			
実施主体名		IDP:IELTS Australia			
Webサイト		http://www.jsaf-ieltsjapan.com/			
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)	月	4～6	7～9	10～12	計
	回数	9	9	4	22
2020年度実施地区		北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州、沖縄			
検定料(税込)		25,380円			
経済的に困難な受検生への配慮		一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。			
試験構成		配点(点)	時間(分)	実施方法	解答形式
	R	9	60	PBT	記述
	L	9	約40	PBT	記述
	W	9	60	PBT	記述
	S	9	11～14	対面	面接
CEFRの測定領域		B1～C2			
障害等のある受検生への合理的配慮		今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。			
備考					

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名		Test of English for Academic Purposes(TEAP)			
実施主体名		公益財団法人 日本英語検定協会			
Webサイト		http://www.eiken.or.jp/teap/			
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)※	月	4～6	7～9	10～12	計
	回数		2	1	3
2020年度実施地区		全都道府県			
検定料(税込)		15,000円			
経済的に困難な受検生への配慮		一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。			
試験構成		配点(点)	時間(分)	実施方法	解答形式
	R	100	70	PBT	選択
	L	100	約50	PBT	選択
	W	100	70	PBT	記述
	S	100	約10	対面	面接
CEFRの測定領域		A2～C1			
障害等のある受検生への合理的配慮		今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。			
備考					

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名		Test of English for Academic Purposes Computer Based Test(TEAP CBT)			
実施主体名		公益財団法人 日本英語検定協会			
Webサイト		http://www.eiken.or.jp/teap/			
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)	月	4～6	7～9	10～12	計
	回数	1	1	1	3
2020年度実施地区		北海道、東北、関東、中部、関西、九州			
検定料(税込)		15,000円			
経済的に困難な受検生への配慮		一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。			
試験構成		配点(点)	時間(分)	実施方法	解答形式
	R	200	約80	CBT	選択
	L	200	約40	CBT	選択
	W	200	約50	CBT	記述
	S	200	約30	CBT	録音
CEFRの測定領域		A2～C1			
障害等のある受検生への合理的配慮		今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。			
備考					

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

平成30年3月26日現在

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名			GTEC(Advanced・Basic・Core・CBT)				
実施主体名			株式会社ベネッセコーポレーション				
Webサイト	Ad、Ba、Co		https://www.benesse-gtec.com/fs/				
	CBT		https://www.benesse-gtec.com/cbt/				
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)	月		4～6	7～9	10～12	計	
	回数	Ad	1	1	2	4	
		Ba	1	1	2	4	
		Co	1		2	3	
		CBT		1	1	2	
2020年度実施地区			47都道府県(全種類共通)				
検定料(税込)	Ad		6,700円程度※				
	Ba		6,700円程度※				
	Co		6,700円程度※				
	CBT		9,720円				
			※但し、文部科学省の動向調査を踏まえ、会場や受検者の想定数を考慮し、検定料については、今後、若干の変動があり得る。				
経済的に困難な受検生への配慮			一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。				
試験構成			配点(点)	時間(分)	実施方法	解答形式	
	Ad	R	320	約45	PBT	選択	
		L	320	約25	PBT	選択	
		W	320	約20	PBT	記述	
		S	320	約25	CBT	録音	
	Ba	R	270	約45	PBT	選択	
		L	270	約25	PBT	選択	
		W	270	約20	PBT	記述	
		S	270	約25	CBT	録音	
	Co	R	210	約32	PBT	選択	
		L	210	約18	PBT	選択	
		W	210	約20	PBT	記述	
		S	210	約25	CBT	録音	
	CBT	R	350	約55	CBT	選択	
		L	350	約35	CBT	選択	
		W	350	約65	CBT	記述	
		S	350	約20	CBT	録音	
	CEFRの測定領域	Ad		A1～B2			
		Ba		A1～B1			
		Co		A1～A2			
CBT		A1～C1					
障害等のある受検生への合理的配慮			今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。				
備考							

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

注4) 本概要では、AdvancedをAd、BasicをBa、CoreをCoと記載している場合がある。

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名			ケンブリッジ英語検定 (C2 Proficiency・C1 Advanced・B2 First・B2 First for Schools・B1 Preliminary・B1 Preliminary for Schools・A2 Key・A2 Key for Schools)			
実施主体名			Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)			
Webサイト			http://www.cambridgeenglish.org/jp/			
2020年度4～12月 月別実施予定回数(回)	月		4～6	7～9	10～12	計
	回数	Pro	1		1	2
		Ad		1	1	2
		First		1	1	2
		First for S	1		1	2
		Pre	1	1	2	4
		Pre for S	1	2	1	4
		Key	1	1	1	3
Key for S	1	1	1	3		
2020年度実施地区			北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州、沖縄			
検定料(税込)	Pro	25,380円				
	Ad	22,140円				
	First/First for S	19,980円				
	Pre/Pre for S	11,880円				
	Key/Key for S	9,720円				
経済的に困難な受験生への配慮			一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。			
試験構成	Pro	R	230	90	PBT/CBT	選択&記述
		L	230	約40	PBT/CBT	選択&記述
		W	230	90	PBT/CBT	記述
		S	230	約16	対面	面接
	Ad	R	210	90	PBT/CBT	選択&記述
		L	210	約40	PBT/CBT	選択&記述
		W	210	90	PBT/CBT	記述
		S	210	約15	対面	面接
	First/ First for S	R	190	75	PBT/CBT	選択&記述
		L	190	約40	PBT/CBT	選択&記述
		W	190	80	PBT/CBT	記述
		S	190	約14	対面	面接
	Pre/ Pre for S	R	170	90(R&W)	PBT/CBT	選択&記述
		L	170	約30	PBT/CBT	選択&記述
		W	170	90(R&W)	PBT/CBT	記述
		S	170	約10～12	対面	面接
	Key/ Key for S	R	150	70(R&W)	PBT/CBT	選択&記述
		L	150	約30	PBT/CBT	選択&記述
		W	150	70(R&W)	PBT/CBT	記述
		S	150	約8～10	対面	面接
CEFRの測定領域	Pro	C1～C2				
	Ad	B2～C2				
	First/First for S	B1～C1				
	Pre/Pre for S	A2～B2				
	Key/Key for S	A1～B1				
障害等のある受験生への合理的配慮			今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。			
備考						

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

注4) 本概要では、C2 ProficiencyをPro、C1 AdvancedをAd、B2 FirstをFirst、B2 First for SchoolsをFirst for S、B1 PreliminaryをPre、B1 Preliminary for SchoolsをB1Pre for S、A2 KeyをKey、A2 Key for SchoolsをKey for Sと記載している場合がある。

平成30年3月26日現在

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名		TOEIC [®] Listening & Reading TestおよびTOEIC [®] Speaking & Writing Tests			
実施主体名		一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会			
Webサイト		http://www.iibc-global.org/toeic.html			
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)	月	4～6	7～9	10～12	計
	回数(L&R)	3	2	3	8
	回数(S&W)	6	6	6	18
2020年度実施地区		L&R: 全都道府県 S&W: 北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州、沖縄			
検定料(税込)		L&R: 5,725円 S&W: 10,260円			
経済的に困難な受検生への配慮		一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。			
試験構成		配点(点)	時間(分)	実施方法	解答形式
	R	495	75	PBT	選択
	L	495	約45	PBT	選択
	W	500 [※] (200 x 2.5)	約60	CBT	記述
	S	500 [※] (200 x 2.5)	約20	CBT	録音
CEFRの測定領域		A1～C1			
障害等のある受検生への合理的配慮		今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。			
備考		※ S&WのスコアレンジはSpeaking、Writingそれぞれ0-200であるが、4技能トータルでの評価を行う際はスコアを2.5倍して配点を各0-500とした上でL&Rのスコアと合算を行う。			

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

注4) 本概要では、Listening & Reading TestをL&R、Speaking & Writing TestsをS&Wと記載している場合がある。

参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験の概要

試験名		TOEFL iBTテスト			
実施主体名		Educational Testing Service			
Webサイト		https://www.ets.org/toefl			
2020年度4～12月 月別実施予定回数 (回)※	月	4～6	7～9	10～12	計
	回数	8	11	9	28
2020年度実施地区		北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州、沖縄			
検定料(税込)		235米ドル			
経済的に困難な受検生への配慮		一定の条件のもとに検定料の低減を検討中。			
試験構成		配点(点)	時間(分)	実施方法	解答形式
	R	30	60～80	CBT	選択
	L	30	60～90	CBT	選択
	W	30	50	CBT	記述
	S	30	20	CBT	録音
CEFRの測定領域		B1～C1			
障害等のある受検生への合理的配慮		今後構築予定の、本システムに参加予定の資格・検定試験の一覧サイトにおいて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱・発達障害・その他の配慮事項について、「聞く」「読む」「話す」「書く」の試験それぞれで配慮する事項等を公表する。			
備考		※ 過去実績を基に掲載しているため、変更の可能性がある。			

注1) 本概要は平成30年3月20日時点のものであり、今後変更があり得る。

注2) 特に月別実施予定回数及び実施地区については、今後、文部科学省において実施予定の各高等学校等を対象とした意向調査の結果等も参考としつつ、更に検討される予定。

注3) 2020年度実施地区については、必ずしも全ての地区の会場で全ての回の試験が実施される訳ではない。

「大学入試英語成績提供システム」の活用イメージ(検討中)

既に多くの高校生が民間事業者により実施されている資格・検定試験を受検している実態を踏まえ、各大学の判断による大学入学者選抜における資格・検定試験の活用を支援するため、大学入試センターに「大学入試英語成績提供システム」を構築

→ 「資格・検定試験」の成績を大学入試センターに一元的に集約し要請のあった大学に提供

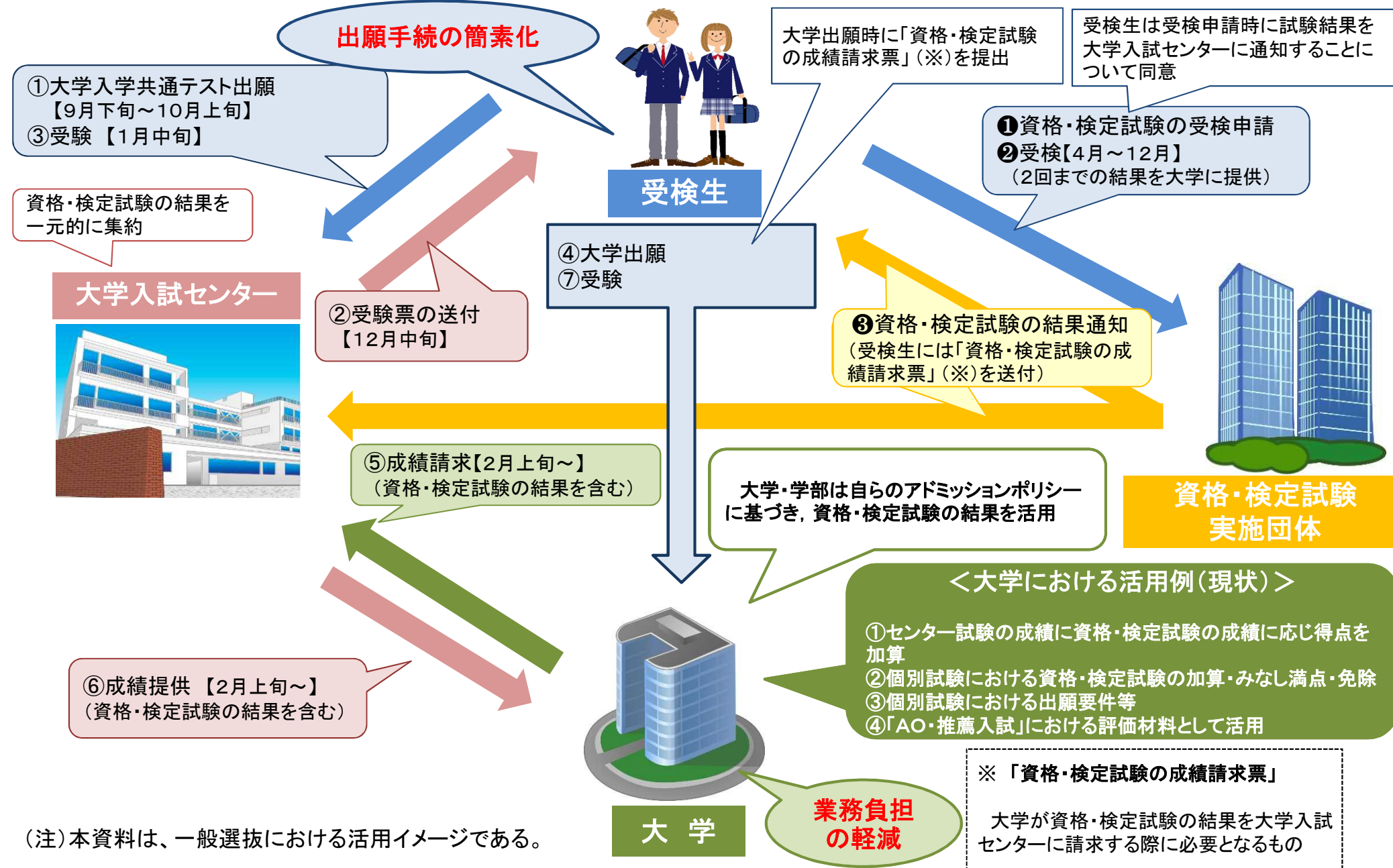


図2 (大学入試センター2018年3月26日公表資料)

各資格・検定試験とCEFRとの対照表（附属資料①）

■ CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment：外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠）について

CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表した。

CEFRが示している6段階の共通参照レベルの記述は次のとおり。

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典）ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (230) (210)			9.0 8.5				
C1	199 180 (190)	3299 2600 (3299)	1400 1350 (1400)	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170)	2599 2300 (2599)	1349 1190 (1280)	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150)	2299 1950 (2299)	1189 960 (1080)	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (120)	1949 1700 (1949)	959 690 (840)		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (100)	1699 1400 (1699)	689 270 (270)					620 320

→ は各級合格スコア

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

- 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。
- ※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。
- ※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。
- ※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。